

陸上運動部部便り

2008年11月号

京大戦・箱根駅伝予選会

目次

1	京大戦	1
1.1	監督の言葉	1
1.2	主将の言葉	2
1.3	女子主将の言葉	2
1.4	試合経過	3
1.5	試合結果	11
2	箱根駅伝予選会	14
2.1	監督の言葉	14
2.2	長距離チーフの言葉	15
2.3	大学院駅伝主将の言葉	15
2.4	出場選手の言葉	15
2.5	試合結果	21
3	新主将・新女子主将・新主務・新長距離チーフの言葉	22
3.1	新主将の言葉	22
3.2	新女子主将の言葉	22
3.3	新主務の言葉	22
3.4	新長距離チーフの言葉	23
4	自己記録更新者一覧 2008.9.7~10.18	23
5	2008年度部内5傑 2008.10.18現在	23
6	主務より	25
6.1	応援OB・OG紹介	25
6.2	行事予定	26
6.3	学生幹事の交代	26
6.4	連絡先(慶弔等)	26

1 京大戦

1.1 監督の言葉

監督 寺田 秋夫

男子81回女子7回となる、京都大学・東京大学対

校戦は京都市西京極陸上競技場で開催されました。戦前の予想としては、女子は大半の種目で1位を取れることは間違いなく接戦ながら勝ち、男子は、蒼穹会側は大差で楽勝と楽観しているであろうところを苦手種目の克服や3番手の成長で5000m勝負に持ち込み、ここで3点負け以内に抑え込めば勝ち、と考えていました。主将尾崎も1点勝ちを予想しており、多少の思い入れはあるにしても、そのくらいには伯仲していたと考えます。男子は、実力を双方発揮すればスコクの応酬になるので、5点差くらいを引っ繰り返しながら進む展開を予想しており、選手にも「上位独占種目はスコク勝必達、スコク種目は一人は3位に入るように気持ちだけは負けないように」と言ってきました。そのような中、シーズン最後の試合にして、初めてベストメンバーが良い状態で揃い、トータルで点が取れるオーダーで臨みました。トラック最初の2種目(100m,1500m)を想定内の12点負けで凌いだものの、スコク勝ちを狙った110mHで主将尾崎が大会新で優勝するも7点勝ちに終わり、3点負けは覚悟したハンマー投げで千葉(2年)が3位と気を吐き1点勝ち、反対に9点勝ち予定の幅跳びが7点勝ちなど「試合はやってみたいとわからない」という好ゲームとなりました。四継終了時点での本学の1点勝ち越しは蒼穹会としては想定外だったと思われます。個々の内容は別にして午前の段階で、勝つ展開には持ち込めたので、砲丸・高跳・400mH・槍投のスコク応酬種目群で引分ではなく、4点勝ち越せば勝てるということまで行きました。ところが、400mHで今期安定していた、深澤(4年)が先頭を走りながら終盤にハードルを引掛て転倒し進路妨害を取られ失格、砲丸もスコクを許してしまい万事休します。それでも高跳びでスコク負けを避けるべく、400mとの掛持ちの小福田(4年)が1m75ながら優勝し何とか望みをつなぎますが、5000mの大幅勝ち越しの期待は酷で健闘するも1点負けとなり、マイルリレーを残してトラック11点差、フィールド同点となります。マイルリレーはメ

ンパー的には有利で、また、不調の兵頭が正に気力で走るようながむしゃらさで好走しますが、京大の100mのエースが好走したことでアンカー勝負に持ち込まれ、アンカー小福田も良くがんばりましたが最後は力尽き15点差の負けを喫しました。圧倒的不利種目で善戦も、とるべき種目をとれなかったことが命取りという構造です。他方、女子は、400,800,3000で主将日下・砲丸楠木(共に3年)が予定通りの圧勝を果たし、リレーを含め7種目中、5つで1位となります。最初の2種目100m、幅跳に京大は今期不調だった主戦の早瀬選手が実力を発揮し共に4点勝ちを取り、結局この2種目の貯金で優勝をさらっていきましました。リレーで大久保が好走したり、800m初挑戦の鈴木が勝負ところを良く抑えた走りをするなど収穫もあったのですが、優勝を達成すべき目標としていたので無念でした。今年のチームは昨秋来、申し上げてきましたとおり、人材という意味ではここ数年でピークのチームでした。しかし、故障を多発させてしまい、今期は一橋戦しか勝てなかったことは大変残念でした。尾崎・武安・大谷を初めとする資質も高く競技姿勢でも範をたれていたエース達、怪我等で試合での活躍は少なかったものの、上手い練習でほぼ全員に自己記録を更新させた中距離チーフの田中と投擲の葉梨等の最上級生に申し訳なく思います。来年は七大・京大とも主幹校ですが、相当の挺入れをしないと厳しい戦いとなることを現時点では覚悟せざるを得ません。女子は、全選手が残りますが、実際にチームを支えてきたとって過言ではない院生の堀越が卒業となり、各選手に今まで以上に選手としての自覚が必要となります。素晴らしいチームであったのに、最後まで思わしい報告ができず残念でしたが、どの選手にも平等に時間は与えられています。危機感を持って、やるべきことを着実にやれば、全員が大幅自己新を出しても不思議ではないレベルですので、箱根予選会・記録会をいくつか残しますが08年というシーズンにできたこと、できなかったことを反省して次に備えたいと思います。大勢の先輩の皆様には遠路、応援に駆けつけていただき有難うございました。この冬は0からの出発ですが、何卒、ご指導ご声援のほど、お願い申し上げます。

1.2 主将の言葉

主将 尾崎 翔

今年最後の対校戦。今年一年の総決算として、ま

た、来年以降の素晴らしい結果への最初の一步として、なんとしても勝とうと確認しあって臨んだ試合でした。展望として、各種目でしのぎをけずるといよりは、お互いに得意種目でスコンクしあい、結果として接戦となることが予想されました。そのため、各選手には「絶対に負けないという思いを持って、まずは気持ちで勝つ」ことを伝えてきました。蓋を開けてみると、開始早々トラック種目で京大に流れを持ってかれかけましたが、苦戦が予想された投擲陣が信じられない勝負強さを見せ、午前中は五分五分の戦い。午後に入ってから少しずつ向こうのペースに持っていかれかけましたが、最後の最後まで勝負がわからない状況でした。そんな中、応援席の全員が声を振り絞り、5000m、槍投げ、三段跳びでは予想以上の結果をもたらしてくれました。こういう状況で力を発揮できるチームは、まだまだ強くなれると感じています。試合を通して、応援席は今年最高に盛り上がっていました。部員全員が、勝ちたいと感じて臨めたと思っています。そして、冒頭で挙げた「気持ちで勝つ」ということ、確かにできていたと思っています。今回の雰囲気をしっかり継承し、さらにこの悔しさを糧に努力すればこのチームの未来は明るいでしょう。結果として、僕が主将であったこの1年はチームとして悔しい思いをし続けましたが、このチームと一年間を共に過ごせたことを誇りに思います。来年は新主将の廣瀬の下で、勝てるチームに生まれ変わると確信しています。この一年、本当にありがとうございました。これからもこのチームの行く末を、暖かく見守りながら、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。このチームに関心を持ってくださった方々に感謝の意を表しつつ、最後の主将の言葉とさせていただきますと思います。ありがとうございました。

1.3 女子主将の言葉

女子主将 日下 桃子

今年の京大戦は、長距離の鈴木(1年)が参入したことや、昨年怪我で出場できなかった跳躍の高山(2年)が今年は無事に出られたことで、昨年よりも無理のないエントリーで臨むことができました。選手達の調子も上々で、大会前は十分優勝できると思っていました。しかし、結果としては昨年と同じく2点差で敗北に終わりました。400m・800m・3000mで日下(3年)が、砲丸投で楠木(3年)が順当に優勝したものの、京大の早瀬選手が怪我から本来の調子を

かなり取り戻したことで100mと走幅跳でスコルク負けしたことが大きく響きました。ただ、苦しい戦況の中でも鈴木が800mで二番手争いを制し3位に入ったり、4×100mRで勝利したりと、精一杯力を尽くすことはできたと思います。要は実力不足だったということですが、今年一年でチームは確実に成長しました。4年生がいないので、来年も同じメンバーが残りますし、新入生も加わればチームはますます強くなると思います。また一年間、気持ちを新たに努力しますので、これからも変わらぬご指導ご支援のほどよろしくお願いたします。最後になりましたが多くのOBOGの皆様にご会場で足を運んでいただき、本当にありがとうございました。

1.4 試合経過

トラック

10:15 男子100m 決勝

2レーンに都井(3年)、4レーンに石田(3年)、6レーンに福田(4年)の出場。シーズンを通じて大車輪の活躍をしてきた都井、福田を軸に、10"80のPBを持つ石田を3人目に加え、盤石の布陣で緒戦に臨む。京大側は吉田の実力は図抜けているとはいうものの、2番手・久保になんとか食らいつきたいところ。ただ、その久保も8月に自己新を叩き出すなど、去年の同じ時期の不調を感じさせない好調であり、決して予断は許されない。号砲が鳴る。号砲に対しては都井と石田が好反応を見せ、福田がこれに続く形となる。3人とも低い姿勢で飛び出す。吉田は序盤からポンと1人飛び出る圧倒的な展開となる。40mからは都井が久保に食い下がり、白熱した3位争いを見せるも、石田は走りが硬くなり徐々に後退。変わって中盤から強烈な伸びで福田が追い上げる。しかし70m付近になると、力を余していたのか、一人旅の状態の吉田に久保がゆうゆう着いて上がる形となり、都井と福田は取り残される。福田が懸命に差し込みにかかるが、これも及ばず万事休す。また石田は失速した所を京大の3番手・山田に絡めとられる形となり、結局、福田は11"21の3着、都井は11"30の4着、石田は11"49の6着でフィニッシュ。このと

き風は+1.9mであった。なお、1着でフィニッシュした京大・吉田は10"66の大会新記録を樹立。うまく追い風に乗れず、あれよあれよという間に終わってしまったのが悔やまれるレースであった。尾崎を加えて戦う4継に、望みを託すところである。

10:20 女子100m 決勝

4レーンに大久保(3年)、6レーンに清水(3年)の出場。京大は、自己ベストでは、東大両選手を上回っているが、今季は奮わずにいる状態である。400、800mでこちらに分があるため、100mでは最下位を取らなければ優位に立つと言っても良い。号砲が鳴る。すると、30mもしないうちに、京大両選手が前へ出る。50mですでに大きな差ができ、盤石なワンツー体勢になる。大久保は、京大両選手に全く食らいついて行けず、13"87の4位でフィニッシュした。清水は、後半スピードが上がり、京大2番手に接近するも、前半の出遅れが響き、13"34の3位でフィニッシュした。この時の風は+3.4mだった。結局、持ちタイム通りの順位にはなったが、強い追い風にしては、東大両選手、とりわけ大久保のタイムが伸び悩んだ。リレーまでに走りを修正することが急務となった。

10:30 男子1500m 決勝

割沢(6年)、石川(3年)、山田(1年)の出場。京大の小山俊之が抜き出ており、東大は2,3番手の選手との勝負に持ち込み、大きく負け越さないことが期待されていた。スタートから京大の小山兄弟が抜け出し東大勢を離すかたちになった。300mで一時は割沢が先頭に追いつくものの500m過ぎで再び離れてしまい、石川も900mで割沢を抜くが前方との距離が離れてしまい、東大は山田が3位を争うかたちになってしまった。その後、山田と京大の3番手が競り合い、ラスト200mでスパートをして山田が一度抜くものの、ラスト100mで再び抜き返すという壮絶なラストスパートであった。最後にはうまく体を使ってガードしながら、山田が4'08"81の3着でゴール。続いて、石川が4'18"23の5着で、割沢が4'19"18の6着であった。結果、東大は7点を獲得

し、京大に7点を負け越されるという悔しい結果になった。それぞれの選手が記録を伸ばし、来年はこのような惨敗がないように期待したい。

10:45 男子 110mH 決勝

3レーンに酒谷(2年)、5レーンに尾崎(4年)、7レーンに高木(1年)の出場。スタートは3人とも順調に滑り出し京大との差も少ない。その中で尾崎は抜群のハードリングとスピードを生かして、2台目で抜け出しトップになり、そのまま1着でゴール。記録は15"07の大会新。風は-1.3mであり、追い風であれば、14秒台も出たかという素晴らしいレースだった。2着だった酒谷は、数週間前に捻挫をしてから練習を余り積めなかったが、1週間前には復活して、本番では不安を感じさせないレースをしてくれた。記録は15"76で、怪我明けというのも考慮すると好タイム。高木は、京大の大橋と前田を序盤に引き離したものの、三浦に2台目で差がついてしまい、その差を縮められず、4着でゴール。記録は16"80。練習でも、うまく跳べておらず、調整が合わなかったのであろうか。男子110mHの総括としては、この種目でスコクが期待されていたのだが、京大の1番手が予想外の16秒前半で走ったので、残念ながらスコクはできなかったものの、尾崎の好走や酒谷の今後を期待させる走りも垣間見え好レースだった。また高木もこれをバネに来年は15秒台の走りをしてくれることを願う。来年はエース尾崎が抜けて110mHは厳しくなるが、酒谷を中心に強いハードルパートを作っていけば、自然と勝利が近付くだろう。

11:50 男子 400m 決勝

2レーンに梶岡(4年)、4レーンに小福田(4年)、6レーンに兵頭(2年)の出場。参考記録では小福田がランク1位、兵頭が3位、梶岡が4位となっている。110mHで大幅に勝ち越したものの、その前の100mと1500mでかなり点差をつけられただけにこの種目も大差で勝ちたいところである。49"49の記録を持つ京大の萩生が補欠と交代したことも好材料だ。号砲が鳴る。小福

田が大きく飛び出し、1つ外側の京大の選手をあっという間に抜き去ってしまう。負けじと梶岡も前半を積極的に飛ばしていく。そんな2人に対して、兵頭は前半やや抑えている。いつものように、後半からスピードを上げてくるであろう。200mを過ぎて、小福田が先頭、続いて梶岡、京大の佐藤。兵頭は4,5番手か。250m手前から梶岡のスピードが落ち、前との差が徐々に開いてくる。兵頭と前の京大の選手との差はあまり縮まっていない。300m過ぎから小福田の1つ内側のレーンから京大の佐藤が猛然と差をつめてくる。小福田も粘る。小福田がそのまま逃げ切るかと思われたが、フィニッシュ直前に佐藤が並び、佐藤は勢いのあまり倒れこんでフィニッシュ。視認は非常に難しく、応援席では小福田の勝利と騒がれていたが、結果は49"77で佐藤が1着。小福田は0.04秒差の49"81で2着であった。梶岡は後半疲れてしまったが、最後は粘って50"85で3着。兵頭は最後の100mで前との差を詰めたが1人を抜いただけにとどまり51"19で4着であった。結果、この種目で東大は12点、京大は9点を獲得し、3点東大の勝ち越しとなった。順当に勝ち越し、トラック最終種目の4×400mRに期待が持てる結果であった。

11:55 女子 800m 決勝

日下(3年)、鈴木(1年)の出場。持ち記録から日下の優勝はまず間違いないものであり、総合優勝を狙う女子チームにとっては2番手の選手である鈴木が3位を確保できるかが焦点となった。スタートですぐに日下が先頭に立つ。すぐ後ろに京大の選手がつき、そこから少し離れて鈴木が3番手を走る。300mを通過した辺りから2番手につけていた京大の選手が少しづつ離れていく。400mの通過は74秒。そのまま徐々に差は開いていき、日下は終始リラックスした走りですぐにゴール。一方、3番手につけていた鈴木は、前の2選手とは離されるものの、しっかりとした走りですぐに400mを78秒で通過。後ろにいた京大の選手との差も僅かずつではあるが広げていき、2'51"27の3着でゴー

ルした。結果、東大は6点を獲得し、2点勝ちとなった。両選手とも各々の役割をしっかりと果たしたレースであった。

12:15 男子4×100mR 決勝

4レーンに石田(3年)ー福田(4年)ー都井(3年)ー尾崎(4年)の順で出場。リレー種目は勝利校に6点、敗北校に2点が入り、点差にすると実に8点が動く重要なレース。マイルと併せての2勝で一気に流れを引き寄せたい所。展望としては後半に控える久保・吉田の2枚看板が強力なので、1、2走でしっかりとリードを作っておきたいところ。石田が100mにおいて敗れた山田に借りを返し、福田・都井が流れを作って4走まで持っていけば、尾崎の粘り強さに期待する事ができる。

号砲が鳴る。1走・石田が神懸かり的な反応を見せ、一気に加速。しかし、京大の山田も加速がよく、滑り出しでは両校互角の展開になる。石田は曲走も無難にこなし、遜色無い走りでの福田にバトンを託す。福田は加速こそやや出遅れるが、バックストレート中盤にかけて強烈な伸びを見せ、じりじりと京大2走・吉川に迫る。70m過ぎからは一気に詰め寄り、ついにリレーゾーン手前で吉川を刺し、都井とのバトンパスにかかるが、ここで少々もたつき、都井にバトンが渡った際にはまた京大と互角の位置に戻る。都井もまずまずの加速で久保にくらいつく。中盤まで粘りの走りを見せるが、曲走路を半分過ぎたあたりからじりじりと離され始め、若干のビハインドをもって尾崎とのバトンパスへ。ここでもバトンワークで差をつけられ、尾崎にバトンが渡った際には5mほど差をつけられる。それでも尾崎は懸命に吉田の背中を負うが、バックストレートの中央付近で大きく離しにかかられ、敗れ、42"79の2着でフィニッシュ。フラット種目での借りを返せず悔しいレースとなった。福田・尾崎という二枚看板が抜け、残された3年生以下にとっては心細いが、都井新チーフの下でまた新しい出発である。絶対的エースの出現も待たれるが、短距離全体のレベルを一段上に押し上げ、主力選手の負担を減らした上でリベ

ンジを狙いたい。

12:25 男子5000mW 決勝

北沢(4年)、位田(1年)の出場。風は少しあったものの、気温は低くコンディションは良好であった。京大戦で今年初めて対校種目に採用された5000mWだが、京大の1番手、廣江は高校時代インターハイで優勝するなど実力で抜きん出ているため、東大の2選手が2位と3位に入って5点を獲得し、競歩全体で京大とイーブンに持ち込むことを目標としていた。レースが始まると、やはり京大の廣江が独走し、東大の2選手はその後方で集団を引っ張る形となった。序盤は位田が引っ張り、その後北沢が前に出た。北沢は2度注意を受けたものの、その後は無難に歩き、24'43"44の2着でフィニッシュ。位田は2400mあたりで北沢に離され、そのまま25'09"65の3着でフィニッシュ。競歩では目標通り5点を獲得することができ、予定通りの歩きをするのできた2人だが、特に位田はまだ1年であり、5000mWで22'25"22の自己記録を持つなど、さらなる活躍が期待される。

13:05 女子400m 決勝

4レーンに清水(3年)、6レーンに日下(3年)の出場。参考記録上では日下とほかの3人にはタイム差がかなりあったため、日下が1位をとることは計算に織り込まれており、清水が何番でフィニッシュするかが焦点であった。号砲が鳴る。日下、清水ともに飛び出す。男子と同様、東大が飛び出し、京大が追う展開となる。日下は、この後に3000m、4×100mRが控えており、ややスピードを抑えた走りであるが、十分なリードを保って200mを通過する。清水は200m前後でスピードが落ち始め、250mを過ぎたあたりで1つ外側の京大の富田に抜かれてしまう。富田はさらにスピードを上げて日下を追う。だが、ホームストレートに入っても、日下との差はほとんど詰まらないまま日下は1'01"77の好タイムで1着フィニッシュ。富田との差が2秒以上開く完勝であった。清水は京大の2番手に迫られることなく、1'05"55の3着でフィニッ

シュ。結果、東大は6点、京大は4点を獲得し、東大の2点勝ち越しとなり、優勝に望みをつないだ。

13:10 男子 800m 決勝

坂井(3年)、須田(3年)、渡邊(2年)の出場。エースの渡邊は京大の中で最も良いタイムを持つ佐藤を、ラスト勝負に強い坂井と須田は京大の2番手の小林に勝ち、大きく勝ち越すことが期待されていた。スタート直後から坂井が飛び出し、小林と渡邊がそれに続いてブレイクラインを通過。須田は落ち着いてその集団よりやや後方につける。坂井はその後も先頭を引っ張り、400mを58"で通過。さらに小林、渡邊、佐藤、須田の順に通過した。この順でややレースは落ち着き、スパートの機会をうかがいながら500mを通過した。満を持して渡邊と小林が残り250mでペースを上げ、先頭に立とうとするが、坂井もこれに反応し、先頭を譲らないまま600mを通過。小林との激しい競り合いの中でも坂井、渡邊は1,2番手をキープし、ワンツーフィニッシュかと思われたが、ラスト100mで渡邊がスパートしたときに坂井と接触し、2人ともバランスを崩し減速してしまった。そこで、追いつけてきていた佐藤が2人を抜き去りトップに立つ。渡邊が必死に食らいつくが、接触の影響が出たのか、いつものラストスパートの切れは見られず、さらに小林にも抜かれてしまい、渡邊は1'59"01の3位でフィニッシュ。それに続き、坂井は2'00"99の4位、ラスト300mの切り替えに対応することができなかった須田は2'02"53の5位であった。ラスト100mまで理想的な展開であったため、見方同士の接触が悔やまれる。対校得点も3点負けとなり悔しい結果となった。

13:30 男子 200m 決勝

2レーンに春日(1年)、4レーンに福田(4年)、6レーンに舩島(1年)の出場。200mは非常に厳しい戦いが予想されていたが、この前に行われた100mでは京大に勝ち越されているため、点数差を広げられたくないところであった。東大の3選手はまずまずのスタートで無難な立ち上がりを見せる。

前半は100mで1、2位の京大の吉田、久保が先行する展開。残りの選手はあまり差の無いままに50mを通過。コーナーを抜けたところで京大の前田と東大の3選手は並んでいたが、コーナーをうまく抜け出した福田と春日はそこから脱する。すこし遅れて舩島も京大の前田をかわし、スコנקは免れる。後半ピッチが上がり、スピードに乗る福田と春日、そして後半の追い上げが非常にうまい舩島。ここで、1位の吉田との差は開いてしまっていたが、2位の久保には食らい尽きたいところである。東大の3選手は粘り強く前にくraitつても、すんでのところでは追いつかず、福田が22"96の3着、春日が23"06の4着、舩島が23"11の5着でゴールとなった。この時風は+1.8mであった。結局スコנקは免れたものの、100mに続き1、2位は京大に独占される結果となってしまい、短距離全体として考えねばならぬことが山積みであることを露呈することとなった。来季にむけて真剣に冬期練習に励み、今季の反省を糧に来季の活躍を望む。

14:05 男子 400mH 決勝

伝統の京大戦も終盤にさしかかり京大に僅差で負けているという状況。地力で若干勝るこの種目でできるだけ差を縮めたい。

3レーンに赤木(2年)、5レーンに深澤(4年)、7レーンに酒谷(2年)の出場。号砲と共に飛び出したのは酒谷。彼は長い距離の練習をあまり積めておらず、自身もそれを感じていたので先行逃げ切りの作戦に出たのである。また深澤もいつも通りの快調のスタート。逆に赤木はスロースタートだが、それは彼のいつものレースパターンなのでラストに期待したい。中盤、酒谷、深澤両名は京大勢を引き離すが、ここ最近調子の悪かった深澤が苦しい走りとなる。8台目を何とか越したが9台目でアクシデント、まさかの転倒をしてしまい、隣の京大選手の進路を妨害してしまう。逆にマイペースを守っていた赤木は狙い通り後半スパート、京大勢をごぼう抜きし先頭を走る酒谷に追いつがる。酒谷も最後の力を振り絞り、結果赤木と酒谷は同着一位の57"07

でゴール。深澤はDSQとなった。この競技で東大は11点、京大は9点で2点差をつけることができた。深澤はこの後、最終種目のマイルリレーに出るので、そこで挽回してもらいたいと思う。

14:20 女子 3000m 決勝

日下(3年)、鈴木(1年)の出場。この種目は本日既に800m、400mの2冠を達成している日下にとっては3種目目、800mで3位と健闘を見せた鈴木にとっても2種目目のレースであり、残りの体力をいかに使うかがポイントと見られた。スタート直後は実力で頭一つリードする日下がスローペースで引っ張る展開となり、やがて京大の前の選手が日下につき、もう一人の選手に鈴木がつくという2集団に分かれたレースになった。先頭集団では日下が1000m過ぎあたりからペースに揺さぶりをかけて京大の選手を突き放すとそのまま独走体勢に入り、11'29"16の1着で見事3冠を達成する。勝ち越しがかかる3位争いであったが、鈴木は必死で京大の選手に食らいつくも、さすがに体力的につらく、1800m地点から粘りながらも次第に離されていき、そのままゴールイン。12'45"25の4着であった。対校得点は同点であったが、1位は譲らず、勝ち越しムードを高めるレースとなった。

14:40 男子 5000m 決勝

山崎(3年)、竹俣(2年)、宮野(1年)の出場。当初、東(1年)が出場予定だったが脚の調子が万全ではなかったため出場を見送った。午後2時40分、気温は20度前後、日差しも弱く、5000mには絶好のコンディションであった。序盤は京大の小山が先頭に立ってレースを引っ張り、竹俣、宮野、山崎の順で付いていった。最初の1000mラップは3分ちょうどで妥当なペース。2000mの通過が6分03秒であり、依然として6人集団でレースが展開されたが、次第に京大の山田が遅れて行き5人で先頭争いが行われた。3000mの通過が9分07秒とペースは衰えず、ここで京大の選手がペースを上げる。竹俣が先頭に付き、宮野・山崎は必死に付くも先頭集団から離される。ペースを上げたまま先頭集団では竹俣と小山が競り

合い、4000mを12分05秒で通過。勝負はラスト1周まで持ち越されるが、小山がラストスパートをかけ竹俣が食らいつくも逃げ切れ竹俣は14'55"47の2着でゴール。後続は山崎が宮野をラスト100mでかわして15'12"51の4着、宮野は15'13"52の5着であった。持ちタイムは京大の選手のほうが上回っていたことを考慮すれば、善戦したといえる。山崎は自己ベストを10秒以上更新し、宮野はシーズンベストを出した。京大に負け越してしまったものの、次週に控えている箱根駅伝予選会に期待の持てるレースであった。

15:05 女子 4 × 100mR 決勝

4レーンに大久保(3年)-清水(3年)-高山(2年)-日下(3年)の走順で出場。ここまで総合得点は4点負けで、京大が失格しない限り総合優勝は叶わないが、最終種目でありチームとして力を注いできたリレーでの1位は渡さず意地を見せたいところ。今季記録では東大に分があるものの、100m決勝では京大に上位を独占され楽観的には臨めない。1走大久保は落ち着いたスタートからうまく加速に乗ると、100m決勝での力みを修正した本来の伸びやかな走りでもアウトレーンの京大を完全にかわし2走・清水へ。清水との距離はギリギリで一瞬ヒヤリとさせたが、練習からミスが少なかった清水は無事にバトンを受け取ると大久保のつくったリードを守るべく力走する。京大・早瀬も追い上げその差を縮めるが清水に並ぶには至らず、東大がリードを保ったままバトンは3走・高山へ。詰まり気味ながらも及第点でバトンを受けた高山は、期待通りに京大を突き放し10m以上の差をつける。4走・日下は多種目出場の中で一度低血糖をおこす厳しい状態ながらもよく集中しいタイミングで飛び出す。前半からとばした高山は若干スピードが落ちバトンゾーン入りでのバトンパスができない。しかしここから走りを乱さなかった高山は日下にブレーキをかけさせずにバトンを渡す。100m優勝の京大・富田の猛追を受ける日下だが、十分なリードに加え走りもよく、危なげなく逃げ切って52"77の1着で

フィニッシュ。今季初めて1位でゴールした女子四継であった。なお日下はこれで4冠を達成した。京大もバトンをつないだため東大は総合2位に甘んじたが、最後にチームの意地を見せたレースであった。記録は今季ベストである七大戦での52"68にわずかに及ばなかったものの、今回の多種目出場者の多さを考えると力をあげているのは間違いない。女子全員で来シーズンにつなげてほしい。

15:15 男子4×400mR 決勝

外側4レーンに深澤(4年)-梶岡(4年)-兵頭(2年)-小福田(4年)の順で出場。東大は400mで京大に勝ち越しており、1位の京大佐藤の400mでの転倒もあったことから風はこちらに流れている気配がした。号砲とともにスタート。深澤は400mHでの失敗を取り返そうとするも序盤から両者譲らぬ展開となる。後半で少し追い上げられるも、そこは粘りわずかに先行してバトンを渡す。バトンパスが上手くいき梶岡は前方に位置取る形となる。しかし京大はぴったりと後ろについて離れない。250m付近で梶岡は堪えきれず抜かれてしまった。その後は何とかリードを広げぬよう粘り3走の兵頭にバトンを繋ぐ。兵頭は必死で前に食らい付く。300m付近で勝負に出た兵頭は京大を抜き逆転。わずかに先行して小福田にバトンを繋ぐ。小福田は400mと走高跳の疲れかリードを広げることが出来ない。両者近接した状態が続き、最後のカーブを抜け出る。ラスト100mでデッドヒートを繰り広げるも僅差で破れ3'21"57の2着でのフィニッシュとなった。東大京大一進一退の攻防の中で最終的に勝利を掴むことが出来なかった。全員が実力を発揮すれば勝てたはずのレースだが東大の勝負での弱さを見せてしまった。メンバーのうちの3人が4年生ということもあり来年度はメンバーの相当数が入り代わるため今年よりも厳しい状況となるかもしれない。一回一回の試合での集中度を増し、勝てるマイルにしていってもらいたい。

フィールド

10:15 男子棒高跳 決勝

大谷(4年)、原(2年)、土居(1年)の出場。強風の舞う中での試合となった。原は別会場でのハンマー投にも出場していたため、3m00から始めて記録を残し、一気に3m50へと挑戦。1跳目はバーに突っ込んで落としてしまう形だったが、2、3跳目では、腰の浮いたよい跳躍を見せ、クリアには至らなかったが、成長を感じさせた。ここでマットの移動が行われ、強い追い風となる中、土居が3m80を余裕をもって1跳目でクリア。続く4m00ではポールが立たず、1跳目を落とすも、2跳目で修正してクリア。4m10では、1、3跳目は左右にずれて跳躍にならず、2跳目は良い入りをするも、ポールが立ちすぎてしまい失敗という内容で、試技を終えた。大谷は4m00を1跳目で難なく成功。4m20の1、2跳目は流れた跳躍になり失敗。京大の3番手が4m10を成功していたため、3跳目を失敗すると、スコンクとなる状況であり、3跳目では握りをあえて低くして跳躍をまとめて成功、3位以上を確定させた。続く4m30では一段階硬い勝負ポールに変更した。1跳目はポールが立たず失敗したが、高さは十分であった。2、3跳目では助走がかなり走れており、このポールでも柔らかく、高さは足りていたが流れた跳躍になり失敗、試技を終了した。この時点で東大の3、5、6位が確定した。京大は1、2番手ともに1年生であり、今後苦戦が強られるが土居を中心に跳躍に磨きをかけて欲しい。

10:15 男子ハンマー投 決勝

寺島(3年)、千葉(2年)、原(2年)の出場。苦戦が予想されたこの種目だが、最初の投擲種目であり、いい流れをつかみたいところである。寺島は昨年この種目の優勝者であり、2連覇の期待がかかる。1投目から無難な投擲をみせたが、以降はあと少しはまらないような投擲が続き、また、京大の久下が自己ベストとなる39m台を記録し、寺島は2番手で最終投擲を迎えることになってしまう。逆転を信じる東大部員の大きな応援を受ける中、寺島の6投目は40mのライン上に落ち、記録は40m13で見事な逆転優勝となった。千葉は故障がち

で練習が十分にはつめていなかったが、調子は上々であり、上位をうかがいたいところである。2投目まではふるわなかったが、3投目に自己ベストとなる33m98を記録。千葉は足をつりながらもその後もベストに近い投擲をみせ3位となった。原は棒高跳と掛け持ち 出場のため4投目から参加した。ハンマー投初出場である原は技術的に不安があり4、5投目はおしくもファールとなってしまう。得点をとるため6投目は回転せずハンマーを置く形で投げ、確実に記録を残す。記録は3m90で6位であったが貴重な1点を取り、この種目東大の1点勝ちとなった。それぞれが自分の役割を果たし、予想を上回る結果を残すことができた。来年もこのメンバーに期待したい。

11:15 男子走幅跳 決勝

尾崎(4年)、武安(4年)、西田(2年)の出場。曇り空が日差しを弱め、暑さも寒さも感じられないような心地よい気温となった。しかし風はやや強く、気まぐれに吹いていたこともあって、各選手とも慎重に足合わせを行っていた。尾崎は1本目から実力の違いを見せつけ、7m近い跳躍を連発。そのまま危なげなく6m97の1位で競技を終える。入部以来、東大を牽引し続けてきた、その歴史を象徴するかのような堂々たる戦い振りであった。武安は腰や足の状態に不安を残したまま、強行出場のような形で臨んだ。しかし、周囲の心配をよそに、ほとんど技術練習が出来ていなかったとは思えないほどの鋭いを動きを見せてくれる。何度かパスをはさみながらも、拍手を求めて跳んだ最終跳躍で6m83を記録し、尾崎に続く2位で競技を終える。西田は事前のアップ不足からか、思うような跳躍が出来ない。後半の3跳は目に見えて調子が上向いたものの足が合わず、記録は6m64で4位。走力は順調に上がってきているだけに、自己ベストに届かなかったのが残念だ。以上の結果により、東大の獲得点数は14点であった。この試合も含め、四年間に渡って期待通りの活躍を演じ続けてくれた尾崎、武安にはどのような労いの言葉も足りないであろう。感謝の気持ちとともに心よりの

おつかれさまの気持ちをここに記したいと思う。

11:15 女子走幅跳 決勝

清水(3年)、高山(2年)の出場。清水は最初の種目である100mで追い風参考ながら好記録を出し、勢いが感じられる。高山は一橋戦以後、助走練習に力を入れており、2位以上を取ることが期待された。追い風の吹く中、競技が開始される。清水は、1跳目が4m13と低調な出だしであったが、持ち前の集中力を発揮し、3跳目に自己記録タイである4m34を跳ぶ。しかしながら、得点に絡むことが難しいと判断、後に控える400mとリレーを考慮して5跳目以降をパスし、4m34で4位に終わった。高山は、1跳目から助走にスピード感が感じられない。修正を試みて、5跳目に4m77をようやく記録するが、逆転を狙って飛んだ6跳目は踏み切り板に足が乗らず、4m69という惜しい記録に終わった。確実に2位を取りたいところであったが4m77で3位という非常に不甲斐ない結果であった。この種目で京大に1位、2位を取られたことで、女子の得点状況は厳しいものとなる。地力の確実な底上げが必要であることは明らかであろう。両者は厳しい気持ちで来季に向け取り組むことが期待される。

11:30 男子円盤投 決勝

北川(4年)、谷(3年)、原(2年)の出場。円盤を専門とする選手がいない東大には苦戦が予想された。北川は30m近い記録を持ち、同程度の記録をもつ京大の選手を確実に抑えたいところであった。谷はこのところ円盤の調子を上げており、本番での爆発力があれば1位入賞の可能性もあった。序盤は、京大の選手に押され気味であったが、谷は集中力を切らさず自己記録を更新し京大の1番手に迫る記録を出し続けた。最終投擲ではこの試合1番の記録を残すも結局相手には及ばず、結局32m32で2位であった。北川も自己記録を更新し京大の2番手に迫る位置につけ続けたが5投目でファールしてしまう。しかし6投目に渾身の投擲をして京大の2番手をとらえ、31m25で3位であった。原は記録を伸ばし続ける他の

選手に一步遅れをとり、25m73の6位に終わった。各選手が自分の種目の傍ら練習を積み、専門選手が不在のこの種目で1点負けに抑えることができた。谷はさらに記録を伸ばし、原は来年は得点源となれるよう成長してほしい。また、投擲は今後種目に対して選手が少なくなるので、現在は投擲でない選手も進んで投擲に挑戦してみしてほしい。

13:00 男子走高跳 決勝

小福田(4年)、荒井(3年)、地子(3年)の出場。京大の選手は3人とも1m80の記録を持っているので、小福田は優勝を狙い、荒井と地子は記録を残して最低限の1点と2点を取りこぼさないようにしようという作戦で臨んだ。3人ともまずは確実に記録を残すために1m45から競技を開始した。荒井がこれを1回失敗してしまうが全員1m45はクリアした。荒井はその後1m55までパスをして自己ベストである1m60に挑んだが、高さはあるものの3回とも尻をバーに当てて失敗してしまった。荒井はしっかり踏み切りが出来るようになれば、まだまだ記録が伸びるので、来シーズンに期待したい。地子は1m50をパスした後、1m55で2回失敗してしまうが、OBのアドバイスを受けて3跳目で成功。1m60も1回で成功させるが、続く1m65では高さが足りなく跳ぶことは出来なかった。小福田は1m60までパスした後1m65で1回失敗してしまい、ここまでノーミスできている京大の選手に一步遅れをとってしまった。1m70は1回で成功。この高さで京大の選手が1人脱落したため、3位以上は確定となる。続く、1m75も1回で成功。大きな歓声が上がった。1m75をパスして1m80に挑んだ京大の選手もいたが、結局跳べず、小福田の優勝が決まった。小福田はマイルリレーがあったため、そこで競技をやめた。結果、小福田が1位。地子が5位、荒井が6位で9点と点数では負け越してしまったが、予想できる最高の結果であった。京大は来年も残る選手が多いので、小福田のぬける東大もこのレベルで勝負できるように1年間走高跳の強化をしなければならない。

13:30 男子砲丸投 決勝

北川(4年)、寺島(3年)、原(2年)の出場。午後になって雲が出てきて日が隠れてしまい、少し冷んやりとした風が吹く中競技が行われた。比較的实力は分かれており、順当に行くと北川が3番、原、寺島が5、6番が予想されたが、ハンマー、円盤と流れがよかったので、調子の良さそうな最高学年の北川の活躍、さらには、原、寺島が京大の3番手を倒すことも期待された。練習投擲では北川は10m程、原、寺島は9m半程の投擲であった。1投目、原、寺島はどちらも9m程であったが、北川は10mを大きく越える投擲を見せ、3番手につける。2、3投目では全員記録を伸ばすことが出来ず、北川3番、寺島5番、原6番で残り3投に入る。4投目、5投目でも東大は記録を伸ばすことが出来ていなかったが、京大の3番手が記録を伸ばし、北川を越える。最終投擲も原、寺島は9m程の投擲で試技終了。北川はわずかながら記録を伸ばしたが京大に3cm及ばず、北川が10m69の4位、寺島が9m16の5位、原が8m88の6位でスコルク負けをしてしまった。この試合で北川が抜けて、寺島、原は来年は砲丸投の勝敗を左右することになるので十分戦える選手になることが期待される。

13:30 女子砲丸投 決勝

大久保(3年)、楠木(3年)の出場。大久保は短距離を専門とする選手であるが、出れば得点できるこの試合で1点でも無駄にしないために100mとリレーの合間を縫って出場した。楠木は砲丸を専門とする選手であり、京大の早瀬に今季の記録では負けているものの、記録は高い水準で安定しており、優勝が期待された。大久保は1投1投ファールとにならないように確実に投げ、リレーのために4投目までで切り上げ、結果は5m16の4位であった。楠木は練習投から立ち投げで8mを超えるなど仕上がりの良さを見せた。1投目では緊張のせいか8m05とふるわなかったが、2投目で8m68と自己ベストを記録し、3投目で8m70とさらに記録を伸ばした。その後も午前中の疲労のせいか調子が合わない早瀬から逃げ切

り、8m70の1位であった。楠木はより規模の大きい試合でも優勝できるように精進してほしい。また、女子は現状でほぼ全員が多種目出場しており、1人の種目をさらに増やすことは容易ではないが、一橋戦や京大戦の砲丸投で勝つ水準は決して高くない。来年対校戦で勝つために、砲丸投の2番手を準備することも考えてほしい。

14:00 男子三段跳 決勝

武安(4年)、廣瀬(3年)、定金(2年)の出場。少し肌寒い天候で、序盤は横風が吹いていたが、中盤からは追い風に変化していった。対校選手としては初の出場となった定金は伸び伸びとプレー。3跳目に13m78の自己ベストを記録し、3位に食い込んだ。武安は今回が引退試合ということもあり、怪我明けにもかかわらず出場した。4跳目に13m92を跳んだが、2位に終わった。調整不足の感が否めず、残念ながら武安は京大戦では一度も優勝できずに終わった。廣瀬は腰に不安を抱えながらも、13m台後半の記録を立て続けに出し、6跳目に13m96を跳んだ。惜しくも関カレB標準には届かなかったが、堂々の優勝を飾った。この結果、東大は三段跳でスコンク勝ちを収め、京大に力の差を見せつけた。来年は武安というエースが抜けるため、現役生の更なる成長が望まれる。

14:15 男子やり投 決勝

葉梨(4年)、北川(4年)、谷(3年)の出場。午後になっても気温が上がらない中で試合となった。谷の優勝は濃厚であり、この試合で引退する4年生の葉梨、北川がどこまで上位に入れるかがこの種目の点を左右するポイントであった。谷は、序盤から安定して60mライン手前の投擲を見せたが、ラインを越えることはかなわなかった。6投終えて結果は57m73の1位であった。次回以降の自己ベストの更新を期待したい。谷を除いては序盤から東大京大の抜きあいで、予断を許さない試合展開であった。50m近い投擲を記録した北川は2位で逃げ切るかと思われたが、京大の佐藤が最終投擲で北川の記録を21cm塗り替え、北川は49m29の3位に終わった。葉梨は今季

ベストを記録して京大の選手を1人抑え、45m24の5位であった。結局この種目では東大が3点勝ち越した。今季ずっとやり投の戦力であった葉梨と北川もこの試合で引退してしまう。来年以降の戦力縮小を阻止するために、この冬の間新しい2番手3番手に成長してほしい。

1.5 試合結果

第81回東京大学 京都大学対校陸上競技大会

第7回東京大学 京都大学対校女子陸上競技大会

於 京都市西京極総合運動公園陸上競技場
(H19.10.12)

男子 100m 決勝 (+1.9)

1	吉田繁治	京都大	10.66(大会新)
2	久保慶護	京都大	11.07
3	福田篤	東京大	11.21
4	都井紘	東京大	11.30
5	山田諒	京都大	11.38
6	石田貴巳	東京大	11.49

男子 200m 決勝 (+1.8)

1	吉田繁治	京都大	21.98
2	久保慶護	京都大	22.64
3	福田篤	東京大	22.96
4	春日慶輝	東京大	23.06
5	拙島一樹	東京大	23.11
6	前田峰尚	京都大	23.51

男子 400m 決勝

1	佐藤翔士	京都大	49.77
2	小福田大輔	東京大	49.81
3	梶岡利之	東京大	50.85
4	兵頭直弥	東京大	51.19
5	山口芳弘	京都大	52.28
6	田所竜翔	京都大	54.31

男子 800m 決勝

1	佐藤翔士	京都大	1:57.94
2	小林弘尚	京都大	1:58.88
3	渡邊拓也	東京大	1:59.01

4	<u>坂井啓一</u>	東京大	2.00.99
5	<u>須田遊人</u>	東京大	2.02.53
6	<u>野田崇洋</u>	京都大	2.06.39

男子1500m決勝

1	<u>小山裕之</u>	京都大	4.05.71
2	<u>小山俊之</u>	京都大	4.06.12
3	<u>山田竜也</u>	東京大	4.08.81
4	<u>櫻井研吾</u>	京都大	4.08.98
5	<u>石川恭平</u>	東京大	4.18.23
6	<u>割沢高行</u>	東京大	4.19.18

男子5000m決勝

1	<u>小山俊之</u>	京都大	14.53.27
2	<u>竹俣直道</u>	東京大	14.55.47
3	<u>近藤学宏</u>	京都大	15.00.46
4	<u>山崎貴裕</u>	東京大	15.12.51
5	<u>宮野健司</u>	東京大	15.13.52
6	<u>山田唯</u>	京都大	15.51.32

男子110mH決勝(-1.3)

1	<u>尾崎翔</u>	東京大	15.07(大会新)
2	<u>酒谷彰一</u>	東京大	15.76
3	<u>三浦裕介</u>	京都大	16.44
4	<u>高木海平</u>	東京大	16.80
5	<u>大橋正義</u>	京都大	16.94
6	<u>前田靖朝</u>	京都大	17.14

男子400mH決勝

1	<u>赤木裕</u>	東京大	57.07
1	<u>酒谷彰一</u>	東京大	57.07(着差ナシ)
3	<u>岡本京祐</u>	京都大	57.31
4	<u>山口芳弘</u>	京都大	58.54
5	<u>井上智志</u>	京都大	58.76
-	<u>深澤真楠</u>	東京大	DSQ(レーン侵害)

男子5000mW決勝

1	<u>赤木裕</u>	京都大	21'08"44
2	<u>北沢太郎</u>	東京大	24'43"44
3	<u>位田武嗣</u>	東京大	25'09"65
4	<u>生谷隆磨</u>	京都大	29'05"61

男子4×100mR決勝

1	京都大	41.82
2	<u>東京大</u>	42.79
(石田-福田-都井-尾崎)		

男子4×400mR決勝

1	京都大	3.21.42
2	<u>東京大</u>	3.21.57
(深澤-梶岡-兵頭-小福田)		

男子走幅跳決勝

1	<u>尾崎翔</u>	東京大	6m96(+2.0)
2	<u>武安光太郎</u>	東京大	6m83(+1.8)
3	<u>谷口康晴</u>	京都大	6m80(+3.5)
4	<u>西田昂広</u>	東京大	6m64(+2.6)
5	<u>高棹真介</u>	京都大	6m19(+2.7)
6	<u>三浦裕介</u>	京都大	6m07(+2.1)

男子三段跳決勝

1	<u>廣瀬彬</u>	東京大	13m96(+0.8)
2	<u>武安光太郎</u>	東京大	13m92(+1.2)
3	<u>定金駿介</u>	東京大	13m78(+1.0)
4	<u>秋山源</u>	京都大	13m04(+0.4)
5	<u>高棹真介</u>	京都大	12m80(+1.2)
6	<u>前田峰高</u>	京都大	12m65(+1.5)

男子走高跳決勝

1	<u>小福田大輔</u>	東京大	1m75
2	<u>三浦裕介</u>	京都大	1m70
3	<u>皆川広太</u>	京都大	1m70
4	<u>巳波壮馬</u>	京都大	1m65
5	<u>地子智浩</u>	東京大	1m60
6	<u>荒井博貴</u>	東京大	1m45

男子棒高跳決勝

1	<u>田中皓介</u>	京都大	4m50
2	<u>秋元一志</u>	京都大	4m40
3	<u>大谷真人</u>	東京大	4m20
4	<u>小西康晴</u>	京都大	4m10
5	<u>土井富裕</u>	東京大	4m00
6	<u>原湖楠</u>	東京大	3m00

男子砲丸投決勝

1	<u>平野実晴</u>	京都大	11m56
---	-------------	-----	-------

2	嶋田研志郎	京都大	11m43
3	佐藤慎祐	京都大	10m69
4	北川昂広	東京大	10m65
5	寺島孝明	東京大	9m16
6	原湖楠	東京大	8m88

男子ハンマー投決勝

1	寺島孝明	東京大	40m13
2	久下哲寛	京都大	39m29
3	千葉伸宏	東京大	33m98
4	佐藤慎祐	京都大	30m74
5	三浦裕介	京都大	28m54
6	原湖楠	東京大	3m90

男子円盤投決勝

1	三浦裕介	京都大	32m66
2	谷彰一郎	東京大	32m32
3	北川昂広	東京大	31m25
4	佐藤慎祐	京都大	31m10
5	矢川勝太	京都大	30m92
6	原湖楠	東京大	25m73

男子やり投決勝

1	谷彰一郎	東京大	57m73
2	佐藤慎祐	京都大	49m50
3	北川昂広	東京大	49m29
4	平野実晴	京都大	45m40
5	葉梨輝	東京大	45m24
6	内野宏俊	京都大	43m21

男子トラック順位

1	京都大	104
2	東京大	89

男子フィールド順位

1	東京大	84
1	京都大	84

男子総合順位

1	東京大	188
2	京都大	173

女子100m決勝(+3.4)

1	富田夏希	京都大	12.96
2	早瀬紗也佳	京都大	13.11
3	清水蘭	東京大	13.34
4	大久保渥子	東京大	14.87

女子400m決勝

1	日下桃子	東京大	1.01.77
2	富田夏希	京都大	1.03.78
3	清水蘭	東京大	1.05.55
4	廣瀬亜由美	京都大	1.09.48

女子800m決勝

1	日下桃子	東京大	2.33.35
2	福谷沙織	京都大	2.36.88
3	鈴木恵美里	東京大	2.51.27
4	市塚友香	京都大	2.56.74

女子3000m決勝

1	日下桃子	東京大	11.29.16
2	森山友紀子	京都大	11.42.17
3	上田容子	京都大	12.13.98
4	鈴木恵美里	東京大	12.45.25

女子4×100mR決勝

1	東京大	52.77
(大久保-清水-高山-日下)		
2	京都大	53.29

女子走幅跳決勝

1	富田夏希	京都大	4m96(+1.7)
2	早瀬紗也佳	京都大	4m93(+1.8)
3	高山花子	東京大	4m77(+1.3)
4	清水蘭	東京大	4m43(+0.9)

女子砲丸投決勝

1	楠木千尋	東京大	8m70
2	早瀬紗也佳	京都大	7m49
3	野尻真裕美	京都大	6m41
4	大久保渥子	東京大	5m16

女子トラック順位

1	東京大	24
2	京都大	22

女子フィールド順位	
1	京都大 12
2	東京大 8

1	京都大 12
2	東京大 8

女子総合順位	
1	京都大 34
2	東京大 32

1	京都大 34
2	東京大 32

2 箱根駅伝予選会

2.1 監督の言葉

箱根予選 院生は新時代に 学部生も健闘

監督 寺田 秋夫

第85回箱根駅伝予選会は、立川昭和記念公園地区で開催されました。今年は学部チームは4年生2人・3年生3人・2年生3人・1年生6人の1年主体チームでエントリーし来年再来年での飛躍を目指し、大学院は依田・増田・石原の14分台トリオで学連選抜入り、あわよくば学部チームに勝とうかという布陣で臨みました。学部は5日前の京大戦のオープンも含めた走り手応援があり、今春卒業の強力メンバーが抜けた穴を、レベルの高い1年と、過年度生のこの1年の成長で補い追い越せるとは確信していました。コンディションはスタート時20度前後、快晴、風なく、まずまずのコンディションです。今年の正月の本戦では、東海・順天が落ちて予選会出場で、記念大会扱いで枠が増えたとはいえず速い展開になることを予想していましたが、他方で選抜チーム入りのラインも下がること必定で、見るレースとしても面白いものとなりました。スタートをきると、明治の松本・農大の外丸あたりが積極的に引っ張り集団もいつも以上に長く見えたのですが、5Kmの通過は意外にも14分50を辛うじて切る程度とゆったりとしており、上位の選手も発汗が激しい選手が見られ選手には暑さを感じられているようです。本学は、院生の依田(D1)が110番前後で箱根常連校の選手に交じって15分20秒くらいで体が良く動きながら通過し期待が持てます。石原・増田(共にM1)もさほど離れず先に院生が通過していきますが、16分前後で学部も竹俣(2年)が通過し、宮野・東(共に1年)・山崎(3年)とリラックスして続き、学部も院も11時間10分程度では行けるのではと思わせました。12Km過ぎの公園周回コース入口で、常連校に加え松蔭・創

価が目立ち、5Kmと順位をさほど変えずに依田は強気に攻める走りで、予選落ちしそうな大学の選手で数えて11番目で通過し、選抜入りの期待がたかまります。石原もさほど離れずに順天の7番手の選手と軽やかに通過していきます。その後も竹俣・宮野・東と続き、後半つぶれそうな様子もなく各選手が続きますがタイムは上がってきません。ただし、10番手以降も安定して続き、特に院生のまとめ方の素晴らしさには脱帽です。15Km過ぎても依田は62分程度の走りで、順大・拓大・東海の後位集団と大差なく120番前後で通過し、石原も変わらぬペースで通過しますが、竹俣・増田はここで差が付いてしまいます。それでも90秒程度の差で二人が行くと、学部・院生で2,3人ずつ追いつけそうなパックになって通過していき、学部は11時間10分は切れるのではと期待させます。ゴール地点で見ていると、上位に城西・上武が目立ち、順大の中位が来ないな、と思っていると、依田・石原が飛び込んできます。結局、本学は院生依田が62分49で146位ですが、落選の選手内で26人目、落選大のトップで数えれば11人目ですので、選抜チームの一次候補には入ったのではと思われます。石原も63分9秒163位で昨年の雪辱を晴らした恰好です。結局院チームとしては、11時間18分36秒で26位と院記録を大幅更新です。学部は、竹俣が64分47秒でトップですが、中盤が良くまとめ合計タイムは11時間14分12秒で総合22位と院生チームより先着となりました。タイムを比べるのは本質的な議論ではないですが、目安として予選通過校が軒並み昨年より3-5分タイムを落としている中、学部チームは昨年よりタイムも上げ、順位も1つだけですが上げたのは収穫です。何よりも、過去、何度となく京大戦との兼ね合いを気にして縮思考でこの時期を過ごしていましたが、走れる時はこのスパンでもそれなりに走れると言うことを身をもって皆が体験したのが何よりです。院生はレベルが高くなりましたが、M2が数名抜けるので、来年はまずは予選会出場も目標となります。学部生は結局部内上位5名に1年が3人2・3年が一人ずつと来年が楽しみな状況ですので、しっかり一年間でのばして、来年は11時間を切りたいと思います。今シーズンは、昨年に増して厳しい年になってしまいましたが、最後にまずまずの結果で、廣瀬新体制の下、0からやり直すつもりで、冬をしっかりと過ごして、京大七六とも主幹の年を迎えたいと思います。今後ともよろしくご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

2.2 長距離チーフの言葉

長距離チーフ 梶井 駿介

今回の箱根駅伝予選会は1年生が多く、若いチームで臨む大会となりました。高校時代にかなりの成績を残してきた1年生に刺激を受けて上級生も例年にも増して走りこみを行い、全員が確実に力をつけてきていました。11時間を切ることを目標にして、とても心強いメンバーでスタートラインに立つことができました。しかし、結果はほぼ全員が想定よりも1分程遅いタイムとなってしまいました。原因としては実戦向きの練習が不足していたこと、練習と休養のバランスがやや欠けていたこと、さらに直前で人がでたことなどが挙げられます。それでも、12人中10人が3年生以下と将来に期待の持てるチームなので、今回の反省を元に、新たなチームでは山崎チーフの下、少しでも箱根駅伝本戦に近づけるよう願っています。応援に来ていただいた方々、本当にありがとうございました。

2.3 大学院駅伝主将の言葉

大学院駅伝主将 片岡 哲朗

今年の院生チームはこれまでにない意気込みで準備をしてきました。他大学出身で実力のある依田(D1)、増田(M1)らの加入で刺激を受け、土日を利用した院生合宿を行ったり、各自が可能な範囲で学部や他チームとの合同練習に積極的に取り組むなど、「学部に勝とう、いや勝てる」を合い言葉に頑張ってきました。当初から依田・石原(M1)・増田で貯金を作り、片岡(M2)・北川(M1)・月崎(M1)が頑張り、黒澤(M2)・千島(M2)が続いて、残りが粘る、というシナリオを描いて、各自が自分の役割を意識して練習してきました。個人の結果を見ると自己ベストを出した選手もいますが、目標に1~2分届かなかった選手が多く、チームとしてもあと10分くらいは...と悔しさが残る面もあります。しかし、チーム順位は昨年から9位アップの26位と躍進、学部まではあと4分余に迫り、タイムでは慶応や立教にも勝ち、大学院ライバルだった筑波大院を突き放すという、かなりインパクトのある成績を残せたと思います。学部生に刺激を与える、良い練習相手になるという役割は十分に果たしました。院生チームも5年目を終え、学業と両立しながら陸上を続けることが伝統として繋がっています。来年以降もさらに発展していくことを願っています。末筆になりましたが、応援に駆け

つけて頂いたOB・OGの方々、院生の皆さん、補助員・サポートを引き受けてくれた学部生の皆さんに感謝いたします。そして依田さんの学連選抜での活躍を祈ります。

2.4 出場選手の言葉

学部生

竹俣 直道(2年) 64'47(221位)

今シーズンは予選会での63分台をずっと目標にして練習してきましたが、結果は関カレ標準にも届かない無残なものになってしまいました。レース展開としましては、5kmの通過は15'42とほぼ予定通りのペースでいけましたが、市街地で小集団で走っている内に無意識にペースダウンしてしまい、公園手前から切り替えようとしたものの足が動かなくなってしまったという感じです。当日は部の皆さんをはじめOB・OGの方々、高校の友人・先生などたくさんの方々に応援していただき本当に感謝していますが、その方々の前でこんな走りしかできなかったと思うと情けなくて仕方ありません。自分の力はまだこんなものではないと信じてはいますが、今はこのタイムを自分の実力だと受け入れて、今後死に物狂いで練習に励んでいこうと思います。

宮野 健司(1年) 65'43(252位)

関西の某K大学の入試の点数を開示した結果が出た日、ふと「東大行ったら箱根予選会出れるやん!」と、思いつき、東大受験を決意しました。あれから約1年半の歳月が流れ、私はその予選会のスタートラインに立つことができました。入部当初は先輩方から「shot putter」などと言われるような体型をしていた私でしたが、8月の夏合宿で1次選考会を通過しつつ順調に距離を踏み、9月下旬の日体長では10000m31分17秒54の自己ベスト、1週間前の京大戦では5000m15分13秒52の大学ベストを出すことが出来ました。関カレのハーフ標準記録である1時間04分30秒も十分射程圏内にあると思っていました。スタート直後は予選会独特の緊張感に飲まれ、なかなかペースを安定させることができないまま最初の5kmを15分47秒で通過し、若干オーバーペースであったために市街地ではずるずるとペースが落ちてしまいました。そし

て、公園内では細かいアップダウンもあってペースはさらに落ち、そのまま何とかゴールしたという有り様で、レース内容自体はあまり良いものではありませんでした。しかし、スタート地点での応援団の応援合戦(?)や、市街地沿道でのたくさんの応援(「あ、東大頑張れ」と、とりあえず応援して下さった人もたくさんいました)など、予選会独特の空気を味わえたことは、かけがえのない経験になりました。この経験を活かし、来年以降は関カレハーフ標準記録と言わず、さらに上を目指して、少しでもチームに貢献できるように、今後走り込んで行きたいです。最後になりましたが、応援やサポートありがとうございました。特に、公園内での応援はものすごい力になりました。あれがなければ、こんなタイムですら走れていなかったと思います。走ることの喜びを強く感じる事ができました。

東 大貴 (1年) 65'59 (263位)

今年は秋から調子を崩し、予選会の1か月ほど前からは右脚を痛めたために練習不足に陥るなど、不安を抱えてのレースでした。しかし、弱気になっても仕方ないので、とにかく雰囲気になれずに自分の走りをする事を心掛けました。スタート直後は周りが速い人ばかりで、ペースをつかむのが難しかったですが、15km地点までは16'05"-16'33"-16'29"とほぼ想定通りのラップで走ることができました。ところが、残り5kmくらいで途端に足が動かなくなり、ラストも上げることができず、ずるずると落ちて苦し紛れのゴールとなってしまいました。ただ、現在の実力と調子を斟酌すると、会心とはいかないまでも満足のいくレースができたと考えています。たくさんの応援にも励まされ、あの大舞台上で走ることができたことを心から嬉しく思います。また、復調の兆しも見えてきたので、来年は関カレ標準である64'30"を大幅に更新する好記録をたたき出し、チームに貢献したいです。最後に、応援・サポートをしてくださり、誠にありがとうございました。今後とも更なる精進をするべく、練習に精を出していきたいです。

山田 健太郎 (3年) 66'13 (265位)

今年も箱根駅伝予選会という大舞台上で走らせて頂きました。5,6月はヘルニアで全く走れず、夏合宿あたりからまともに練習に参加し始め、な

んとかこの予選会に間に合わせました。調子は昨年と同じくらいだったので、前回大会のタイ66'47"切りを目標にスタートしました。5kmの通過は16'10"、10kmの通過は32'38"といい調子で走りましたが、公園に入ってからアップダウンでだんだんきつくなり、足底の痛みも出て地面を蹴れなくなり少しずつペースを落としてしまいました。それでも部員、OB・OGの方々の声援に背中を押して頂き、つらい所で粘ることが出来ました。後半のラップは16'35"-16'59"でした。やはり怪我による走り込み不足で公園に入ってから急に脚にきました。昨年も怪我で調整が出来ず万全の状態スタートラインに立て無かったので、来年は自信を持ってレースに臨めるよう1年間かけて走り込みたいと思います。今後ともご声援よろしくお願い致します。朝早くから応援、サポート本当に有難うございました。

山田 竜也 (1年) 67'19 (294位)

自分はチームの中堅的な位置にいるということで前半はあせらず確実に試合を進めました。入りの10kmが34'07"とかなり遅かったですがそのおかげか公園に入ってから足が動き、坂も苦になりませんでした。後半の10kmは33'12"とかなり上がりましたが、前半抑えすぎたかな、という感じです。来年からはチームを引っ張るぞという意識で積極的なレースができるよう1年間走りこみます。多くの方々の応援とサポートのおかげで完走することができました、本当にありがとうございました。

山崎 貴裕 (3年) 67'42 (308位)

一週間前の京大で5000mのベストを更新し、火曜の練習でも調子が良好だったので、関カレ標準の64'30"を目指して走ろうと思っていました。なので、3'10のペースで入り、行けるとこまで行こうと思っていました。5kmはペース通りの15'53で入りましたが、ここですでに足が重くなってしまい、ペースが徐々に下がってしまう苦しい展開になってしまいました。公園に入ったときには3'30近いペースにまで落ち、チームメイトや院生にも次々に抜かれてしまい、学部内6位という果たすべき役割を全く果たせぬレースでした。敗因としては、この一週間練習量を落とした調整をせず、疲れがとれてなかったことと、水曜日から風邪を引いてしまい体調

が優れなかったことがあると思います。どうも自分はねらった試合でうまいことピークを持っていくのが下手のようで、残り一年は調整力が一番の課題になりそうです。来年は最後の予選会となるので悔いのない走りをしたいと思います。当日はサポートと応援をしてくれた部員みなさん、また忙しい中応援に駆けつけてくださったOB・OGのみなさん、本当にありがとうございました。

梶井 駿介 (4年) 68'01 (320位)

過去2回の予選会では、つぶれたりおなかが痛くなったりと、まともに走りきれなかったことがなかったので、今回は最後ということもあり、慎重を期してレースに臨みました。前半から1キロ3分25秒ほどでペースを刻み、5000mの通過が17分01秒と、少し遅いと思うペースでした。しかし、監督や田坂さんのアドバイスもあり、中盤で飛ばし過ぎないようにイーブンペースを刻み、次の5000mも17分04秒でした。その後、公園に入る12キロ地点からペースを上げようとしたのですが、思うように切り替えがきかず、一緒に走っていた山田竜にも離されてしまいました。結局最後まで5000m17分のペースを刻み続け、最後は意地で野村に勝つに留まりました。ゴールタイムは68分01秒でした。正直満足の行く結果ではありませんが、イーブンペースを刻む自分らしいレースはできたと思います。これで引退となりますが、可能な限り競技は続けていきたいと思っています。応援ありがとうございました。

野村 圭吾 (3年) 68'04 (321位)

半年ぶりに走り始めた7月末の段階では、予選会に出られるかどうか怪しい状態でしたが、順調に体力を戻していき、無事選手に内定することができました。しかし冬学期に入ると調子を落としてしまい、目標をピーク時の67分から67分半に修正してスタートラインに立ちました。入りの1000mが3'25"で、今思うと、そこで焦ってペースを上げすぎたことが一番反省すべき点です。10kmまでは3'20"ペースでしたが、公園内に入ってずるずると落ちていき、特に16kmで両ふくらはぎをつりかけてからは、フォームも崩れ、酷い走りでした。それでも何とか走りることができたのは、応援して下さった皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

最後の年となる来年こそは、悔いのない走りができるように頑張ります。今後ともご支援、ご指導宜しくお願い致します。

青木 佑樹 (1年) 70'01 (376位)

まずはじめ、箱根駅伝予選会のメンバーとして走ることができて、みなさんに感謝しております。とてもいい経験になりました。予選会の前週に不注意から怪我をしてしまい、予選会の週には怪我がだいたい治ったため練習できていたのですが、前週は走ることができずプール通いが続いていたため、走ることにかなりの不安がありました。他の選手や補欠の方に迷惑をかけることが最低限の義務だと思ったので、なんとか調子を合わせて走りました。レース序盤は1k 3'20"~30"で押していきました。10k地点を34'20"で予定より少し早いペースで通過しました。15k地点までは3'30のペースを保てましたが、公園に入って中盤あたりから前に走る選手がいなくなったため、ペースが気づかぬうちに下がってしまい、最終的に70分という結果に終わりました。怪我をしていたとはいえ、体力的にもう1分は速く走れたと思います。気持ちが弱かったのが原因のひとつです。日ごろからの練習量が少なかったことが、体力のみならず自信や気持ちの強さの低下につながったのだらうと思います。とはいえ、部員・マネージャーの皆さん、OB・OGの皆様、監督やコーチに応援していただいたからこそ、苦しい時にも走り続けることができました。本当にありがとうございました。今回で自身の弱点がわかったので、次につながるレースという意味でよい経験になりました。この予選会では記録としてチームの足を引っ張る存在になってしまいましたが、来年こそはチームのタイムを縮められる選手になりたいと思います。ありがとうございました。

髙田 洸一 (2年) 70'23 (386位)

自分としてはしっかり走れたと思いますが、それでもこのようなタイムしか出せず、実力不足を痛感しました。練習は積んできたつもりでしたが、覚悟が足りなかったように思います。来年は、東大記録の更新に貢献出来るよう、今年より5分縮めるつもりで練習していこうと思います。

高田 知樹 (1年) 71'16 (411位)

今回の予選会で走る機会をいただきましたが、その結果は満足できるものではありませんでした。しかし、20kmという長い距離を初めて試合で走ったことは良い経験になりました。今回の予選会での経験や感じた思いを生かして練習を重ね、今後の試合につなげていきたいと思えます。

大島 淳(4年) 72'59 (451位)

大会前の重要なポイントは、いかに戦闘力を落とさないで試合に臨むかでした。夏合宿終えてからの戦闘力の低下が著しく、その衰えを如何に遅らせるかが鍵でした。例年通り原因が分からないまま、着実に症状は進んでましたが、本番はそれなりの調子で迎えることができました。しかし、レース展開は序盤から苦しいものになりました。フォームがばらばらで、水の中を泳いでいるような感覚でした。3キロ地点で時計が壊れ、5キロの給水も取れず、一瞬混乱しましたが、10キロ地点からフォームを変え、精神的にもポジティブに走ることで、終盤まで大きく失速することなくレースを終えることができました。目標のひとつとして、部内10番以内を設定していましたが、結果は部内12番でした。力不足を実感しました。4年目にして、念願の箱根予選会出場を果たし、目標がかなえられたことに、非常に驚いているし、うれしく思います。本大会の反省を胸に、次のレースへ向けて、また1から足作りをしていきたいと考えております。

大学院生

依田 崇弘(D1) 62'49 (146位)

箱根駅伝本戦への出場をかなえたいという思いでスタートしましたが、予定より最初を速いペースで行ってしまい、序盤からかなり苦しいレースでした。特に公園に入って以降は、今までで初めてレース中に吐き気を催し、脚も痙攣一歩手前でずっとピリピリしている状態でした。東大の後輩・関係者の皆様の声援が、何度もめげそうな気持ちを持ち直させてくれなければ、最後まで走りきることも厳しかったかもしれません。18km付近で脚に痙攣を起こし、最後は締まりのないゴールとなってしまいました。暑さの影響で全体の記録が1分弱くらい遅めであることを考えると、62分49秒という結果には、最低限のものは達成できたかなと思っています。

例年通りの基準で選手選考が行なわれれば、関東学連選抜には何とか滑り込んでいるという状況ですので、レース序盤の心境からすると、とりあえず今はホッとしているというのが率直な感想です。東大関係者の皆様のご支援のお蔭様で、こうして箱根駅伝という夢を追いかけることができることを大変幸せに思います。競技の結果にて、皆様の期待に応えられるように頑張りますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

石原 宏尚(M1) 63'09 (163位)

6月末にヘルニアっぽい怪我をしてしまい、8月末まで全く練習が積めませんでした。怪我が癒えた9月からの練習でなんとか本番に臨みました。結果は15'26-15'55-15'50-15'58の63'09の自己ベストで163位でした。現状の練習からいけば全力を出せたといえます。しかし、今回は予選校の枠が増え、学連選抜の基準が下がり、実際のところ、あと20秒で一応学連選抜に選抜されたことを考えると悔いが残ります。今回の9,10月の練習、調整、そしてレースで何か大きくステップアップできる自信が掴めたので、残されたあと一回の予選会で最高の結果を残せるよう、努力したいと思えます。具体的な目標タイムは20kmを61分前半で常に走れる実力をつけることで、そのためには何をすればよいのかを考えながら練習しようと思えます。

増田 紘之(M1) 65'51 (261位)

今年が人生初めての箱根駅伝予選会でした。中央大学時代には箱根駅伝で勝つことを目標にしたチームが組まれていたこともあり、自分も何とかして優勝メンバーの一員として貢献できたらいいと思って4年間を過ごしてきました。そして今年、大学院チームに声をかけてもらい、この一年、もう一度走ることを決意しましたが、正直臆抜けていました。気楽に皆と走りたと思うばかりで、以前のような勝負の気持ちが湧いてくることは正直なかなかありませんでした。その臆抜けた気持ちが、ここ一ヶ月の故障に形として現れていたと思います。この不甲斐ない走りに対しても多くの方々から応援をして頂き、その力で公園に入ってから痛みを忘れて走ることができました。この応援と、学部、院チームの皆さんの走りが自分に新たな気持ちを与えてくれました。この気持ちを少なからずでも形

に変えて来年のチームのためにできたらと思います。どうも有難うございました。

月崎 竜童 (M1) 67'00 (285位)

「大学院チームは学部あつての院チームである。」ということ、進学してから常に心に刻み、OBとして後輩たちにどういう背中を見せられるか意識しながらこの半年間、競技に取り組んで参りました。大学院に入り学部時代とは競技カレンダーは大幅に変わりました。上半期は関東インカレ、下半期は箱根予選会と目標が明確化されました。大学院主導で6月頃から予選会に向けて河口湖合宿を行うなど、研究生活に時間がとられる一方で、競技への取り組み自体は他の駅伝校のような入念な準備ができるようになりました。一緒に練習する院チームが早々に予選会に取り組んでいた影響もあってでしょうか、今年の学部は七大戦の前から予選会を意識する選手が多かったように感じました。今年の予選会で、10km過ぎてから多くの選手がペースの落ち込みを踏み止まり、辛抱強く我慢できたのは、トラックレースに向けて距離を落とさなかったからことが要因となりました。その一方でトラックレースはというと、七大戦・京大戦の5000mでは勝負には敗れましたが、タイムで見れば、私が見てきた過去4年間のどの大会よりも、速かったです。特に京大戦では三番手の宮野で15分15秒程度でしたので、長い距離をしっかりと走れば5000mも走れるということが顕著に示されました。私自身も、1500mというトラック種目から遠ざかり、春シーズンから5000m以上を強化してまいりました。今回の予選会タイムは昨年からも2分近くタイムを向上させましたが、練習の成果が思うように発揮できず、正直な感想を言えば、「こんなものか。」と自分に失望しました。やはり10キロ過ぎからの昭和記念公園の難コースは甘くありません。そこで真価を発揮するには、25~30kmの距離走を基本とし、量を踏むことで質を向上させることを、心掛けて取り組んで参りたいと思います。まだまだ練習量が不足していますし、基本的な「走り」についても考えさせられました。卒業した松本、今年の依田・石原と、学連選抜入りが見事な目標となる選手の出現によって、東大陸上部の中で、少しでも「箱根駅伝・本選」を意識できるようになったことが感じられ、4年前

とは確実に雰囲気が変わりました。私個人の目標としてはまだまだ遠いものですが、来年は学部・院チームから、「一人は学連選抜で本選を走る選手を送り出すこと」を、院チームの駅伝主将として掲げたいと思います。来期への個人目標は、

上半期-3分59秒を切り、関東インカレ出場、下半期-予選会で64分を切る。(1km3分10秒ペース)

とし、学生競技人生の最後の年としたいと思います。今後とも諸氏先輩方の変わらぬご支援のほどよろしくお願いします。学部生のみならず、院生に負けぬように練習してください。応援・サポートありがとうございました。

北川 裕一 (M1) 67'22 (296位)

学部時代は早稲田大学の陸上同好会に所属して、今回が初の予選会でした。結果は67分22秒と当初目標にしていた64分30秒というタイムには遠く及びませんでした。8月は練習量に対して(月間1105km)十分な休息をとらなかったため9月に入り大きく体調を崩してしまいました。少しずつ調子は戻ってきたのですが直前で風邪を引き発熱してしまいました。体調管理が不十分な点は強く反省しなければなりません。スタートから体が動かなく3kmもいかないうちに苦しくなりました。しかし、そこからは粘りに粘って大崩れすることなく何とかゴールに辿り着けました。この体調の中ではベストの走りができたと思います。今回の反省を今後活かしていき、今後も高い志を持ち陸上競技に取り組んでいきたいです。ずっと夢見ていた舞台でこのチームで走れて心から幸せでした。そして、応援の後押しがあり20kmを走り切ることができました。本当にありがとうございました。

片岡 哲朗 (M2) 67'27 (300位)

今年の夏は良い練習が積めており、3週間前の記録会でも10000mの自己ベストを更新していたので、目標は65分でした。5kmごとのラップは16'11"-16'56"-17'06"-17'12"で、目標通りに行けたのは最初だけでした。最後の予選会だと思って、最初に余分な力を使ってしまったかもしれませんが、走った直後はやり遂げた充実感がありましたが、最後を飾れなかったことと当初のチーム内でのノルマよりもマイナスになっ

てしまったことに対する悔しさが徐々に滲んできました。院生になっても予選会に出られるのは、先輩方が築いた道と学部生の協力のおかげで、とても感謝しています。あの予選会独特の雰囲気や5回も走れたことと、今年の院生チームで目標を共有してやってこられたことを嬉しく思います。ありがとうございました。

千島 悠司 (M2) 69'01(344位)

これまで予選会ではいい走りができず悔しい思いを重ねてきたので、自身最後となる今回こそは最高の走りをしたいという思いで臨みました。夏前は研究と上手く両立できず、5000m17分を切るのがやっとという調子でしたが夏合宿では学部生にお世話になりながら距離を踏み、毎週土曜には院生で集まって代々木公園での距離走をこなしながら調子を上げてきました。直前の調整練習で体が重かったので、本番では自重して5kmを17分で入り、徐々にペースを上げていこうとしました。リズムよく快調に走っていたのですが、給水が上手くいかなかったせいか、練習不足のせいか、それまで68分ペースで走っていたのに15km手前で脚がつりそうになり急激にペースダウンしてしまいました。それでも田坂先輩をはじめ多くの方々の熱い声援が力になりゴールすることができました。当日は本当に多くの応援・サポートありがとうございました。記録には全く満足していませんが、スタートからフィニッシュまで気持ちを切らさずに走れたので悔いはありません。また、院チームとして順位が大幅に上がったのでその一員として走れたことを大変うれしく思います。これでも箱根予選会に出ることはないことを思うと非常に寂しい気持ちがしますが、来年以降も東大陸上部員の活躍を期待して、今度は応援・サポートする側にまわり、少しでも力になればと思います。

黒澤 徹也 (M2) 71'20 (414位)

今年は2年ぶり4度目の出場でした。学部最後の一年で大幅の記録向上を達成し、このままの勢いで院でも自己ベストを連発しようと目論んでいたものの、怪我など走れない日々が続き、何も達成しないままこの大会を迎えました。今年の目標は70分切り。チームとしてもかなり期待できる陣容で、僕もできる限り力になりたい、最後までベストを出したいと思っていました

が、練習が積めず、今の状態ではこれが精一杯の目標でした。当日はただ楽しもうと開き直れたからか、思ったよりはうまく走れて10kmは34'35で通過。このまま70分切り以上の走りができるのではないかと内心思いましたが、アップダウンの激しい公園に入るとリズムをうまく取れなくなり、ズルズル後退し、結局目標より1'20遅いゴールでした。日頃の練習不足が露呈して後半は散々な走りでしたが、何度も気持ちが切れそうになっても走りきれたのは多くの声援を頂けて嬉しく楽しく走れたからで、レースにも応援・サポートの皆様にも大変感謝しています。予選会前は今後は気ままに走ろうと考えていましたが、怪我続きだったからしょうがない、そんな言い訳が頭から離れないのも情けないので、あと少し頑張ってみようと思っています。応援にサポートに、朝早くから本当にありがとうございました。

村田 拓哉 (D1) 72'07 (430位)

今年で6回目となる箱根駅伝予選会は去年と比べて2分近くタイムは落ちてしまい、練習不足がそのまま結果として露呈されるものとなりました。やはり予選会のレースはこれまでの練習量と努力が直接結果に結びつくものであるということであらためて痛感させられました。予選会に出場できるのも最後となる来年は、自分の力を出し切り満足のいくレースになるようにこの1年過ごしたいと思います。後半何度も気持ちが切れそうな中でも応援、激励の声に後押しされ、最後まで走り切ることができました。応援、サポートしてくださった皆様ありがとうございました。

中原 健二 (D1) 72'30 (443位)

今回で7回目の出場でしたが、記録は今まで一番悪いものになってしまいました。チームに貢献できず院生チームのみんなには迷惑をかけました。来年で予選会は最後になるので悔いが残らないように練習に励みたいと思います。応援、サポートをしてくださった皆様本当にありがとうございました。

板倉 祥哲 (M1) 73'01 (452位)

今回は念願かなって初めて予選会に出場させていただきました。それゆえに本番前は心配や不安で押しつぶされそうでした。そんなときに

緊張で口数が減っていた僕を和らげてくださったサポートの先輩方には本当に感謝しています。当初の目標は70分で、最初は抑えていこうと心掛けていました。それを守ってはじめの5キロは17'40"といういいペースで入ることができました。しかし公園を出たあたりから次第にペースが落ち始め10キロの通過を35'59"と粘ったものの公園に戻ってきてからというもの3'40"/キロを守るのが精一杯でした。終わってみれば頭で描いていたレース展開とは程遠い結果に終わっていました。チームのタイムにすら貢献することができず、応援していただいた方には本当に期待外れな結果となってしまい申し訳なさでいっぱいです。ですが、やはりその応援があったからこそ最後まで走り切れたと思っています。予選会は他のどの大会と比較しても応援の程度が桁違いだと思います。この日だけは遠くからも大勢の方が足を運んでくださり、しかもこちらが顔すら知らない人に名前を呼んで応援していただいたときには注目度の違いを実感しましたし、感動的でした。いつかその舞台に立ちたいと思って陸上を続けてきて、このように実現できたことは僕にとって本当に貴重な体験となりました。学部時代のことを引きずっているような言い方をしてしまいますが僕は4年間で一度も対校選手になれたことはありません。しかしこんな僕のような選手でも辛抱強く競技を続けていけば大舞台に立てるチャンスが訪れるのだということを僕と同じような境遇の人たちに伝えることができたとしたら僕が走ったことで少しは役に立てたのかなと感じています。しかしこれで終わりではないので来年、最後の予選会では今年よりちょっとは強い走りをして締めくくりたいと思いますのでどうぞよろしくお願いたします。最後になりますが、予選会前から練習で引っ張っていただいた田坂先輩をはじめ、応援してくださった多くの方々、そして共に練習し、励ましてくれた院生チームと学部の皆さん、本当にありがとうございました。

鈴木 崇人 (M2) 75'50 (489位)

タイムは現在の自分の実力から狙ったとおりでした。しかし、このようなレベルを狙うことになってしまったことを反省しております。来年はチームに貢献できるように、院生での集団

練習をまず盛り上げるように頑張ります。

2.5 試合結果

第85回箱根駅伝予選会

於 自衛隊立川駐屯地～国営昭和記念公園
(H20.10.18)

総合順位		
順位	大学名	タイム
1	城西大学	10時間13分20秒
2	東京農業大学	10時間13分46秒
3	上武大学	10時間15分47秒
4	日本体育大学	10時間17分04秒
5	拓殖大学	10時間17分43秒
6	神奈川大学	10時間18分04秒
7	東海大学	10時間18分15秒
8	専修大学	10時間19分25秒
9	明治大学	10時間19分30秒
10	大東文化大学	10時間21分01秒
11	国土館大学	10時間17分57秒 (10時間21分32秒)
12	順天堂大学	10時間20分13秒 (10時間24分03秒)
13	青山学院大学	10時間20分33秒 (10時間21分48秒)
以上が本戦出場		
14	法政大学	10時間20分39秒 (10時間23分49秒)
24	東京大学	11時間13分42秒 (11時間14分12秒)
26	東京大学大学院	11時間18分26秒 (11時間18分36秒)

11位以降の記録は、第87回関東インカレの成績に基づくアドバンテージタイムを差し引いた最終総合タイム。括弧内の記録はレースタイム。

個人順位		
順位	名前	タイム
東京大学		
221	竹俣直道	64分47秒
252	宮野健司	65分43秒

263	東大貴	65分59秒
265	山田健太郎	66分13秒
294	山田竜也	67分19秒
308	山崎貴裕	67分42秒
320	梅井駿介	68分01秒
321	野村圭吾	68分04秒
376	青木佑樹	70分01秒
386	鳶田洸一	70分23秒
		11時間14分12秒
411	高田知樹	71分16秒
451	大島淳	72分59秒
東大院		
146	依田崇弘	62分49秒
163	石原宏尚	63分09秒
261	増田紘之	65分51秒
285	月崎竜童	67分00秒
296	北川裕一	67分22秒
300	片岡哲朗	67分27秒
344	千島悠司	69分01秒
414	黒澤徹也	71分20秒
430	村田拓哉	72分07秒
443	中原健二	72分30秒
		11時間18分36秒
452	板倉祥哲	73分01秒
489	鈴木崇人	75分50秒

3 新主将・新女子主将・新主務・新長距離チーフの言葉

3.1 新主将の言葉

廣瀬 彬

これから一年間主将をやらせていただき、跳躍パート3年の廣瀬です。今シーズンの主な試合はすべて終了しました。シーズンが始まる前、今年のチームは近年では一番強いと言われておりましたが、結果は関東インカレ2部で2点と惨敗、対校戦での勝利は一橋戦のみ、と結果が出せませんでした。この原因は、去年までのチームでも中心となって活躍してきた4年生に頼りっぱなしで3年生以下に練習、試合に対して甘えがあったことにあると思います。このままでは来年はもっと悲惨なことになることは目に見えています。しかしながら、ポテンシャルの高い選手がいることも事実であり、部員全員が自分

に対する甘えをなくし、正しいやり方でしっかり練習すれば、必ず強いチームになると確信しています。

最後になりましたが、部員一同、結果を出せるよう精一杯頑張っていきますので、これからもご指導、ご支援よろしく願いいたします。

3.2 新女子主将の言葉

日下 桃子

引き続き女子主将を務めます日下桃子です。中距離パートで専門種目は800mをやっております。これからまた一年よろしく願いいたします。来年度はチームの主軸の3年生4人が最上級生となり、チームとしては勝負の年となります。昨年度はまだ駆け出しで、どれだけやれるかわからない状態でしたが、七大戦4位、その他各対校戦も上位を獲得できました。中でも4×100mRは52秒台で七大戦で3位入賞し、大きく飛躍することができました。今年は堂々と「七大戦と京大戦の優勝」を目標に掲げられます。また、下級生が少ない状態ですので、新入部員の獲得にも一層尽力したいと思います。来年度はさらに強いチームを目指し、男子チームにも刺激を与えられるような活躍をし、相乗効果でチーム全体が納得のいく結果を得られればと思います。女子主将として、また女子チームのエースとして、精一杯尽力していきますので、これからも変わらぬご指導とご支援をよろしく願いいたします。

3.3 新主務の言葉

坂井 啓一

この度新しく主務に就任いたしました中距離3年の坂井啓一と申します。伝統あるこの部の運営を任せられ、身の引き締まる思いでございます。円滑な運営ができるよう精一杯努力していく所存でございますので、よろしく願いいたします。また、一選手であることを忘れずに、日々練習に励み、結果を残し、部に貢献したいと思います。次回の七大戦は60周年記念大会であり、わが校が主管であります。現役学生だけでなく先輩方と共に一丸となって、この記念すべき大会を成功させたいと思います。七大戦のみならず対校戦の折にはぜひとも競技場へ足をお運び下さい。これからも変わらぬご指導、ご支援をお願いいたします。

3.4 新長距離チーフの言葉

山崎 貴裕

去年、強い四年生が抜け、チーム力の大幅ダウンが懸念されましたが、昨冬成長著しかった竹俣や力のある新入生の加入などの好材料もあり、チームの目標として11時間切りを掲げていました。結果は目標には届かない残念なものでしたが、宮野、東、山田竜の3人の一年生を筆頭に若い選手がチーム内で上位を占め、来年以降の予選会に期待を残して終えられたと思います。今年の予選会へ向けた練習は例年通り7月上旬頃から始まり、七大会の日程との兼ね合いで菅平合宿を外し、8月の北海道清里町での2週間以上に及ぶ長期合宿一本に絞り、8月は距離を踏み、9月は距離も踏みつつ、距離に慣れた足にスピードを上乗せしていこうという方針で練習を積んでまいりました。北海道では例年以上の涼しい環境で練習ができ、けが人も少なく、非常にいい練習ができました。9月も順調に練習をこなして来れたと思います。しかし、本番では一人当たり1分以上縮めなければ目標には届かない結果に終わってしまいました。ここ3年間私が見てきた予選会どれもが目標に10分以上届かない結果に終わっています。原因は当日の調子云々もあるとは思いますが、一番の原因はトラックシーズンの練習方法にあると思います。トラックシーズンは5000mに特化した練習に完全に切り替わり、10月に20kmを走るための練習が全く積めていません。7月の準備期間含め、8、9月の3か月では20kmを走る足は作れないと思います。そこを来年は変えていきたいと思っています。予選会を最大の目標とし、トラックシーズン真ただ中でも予選会を見据えた練習を取り入れ、来年こそは新東大記録を打ち立てたいと考えています。箱根駅伝という学生長距離選手にとっての夢の舞台に少しでも近づけるように、また、再び箱根へというOBの方々の期待に少しでも応えられるように、私たちはまた一年、自らの可能性に挑戦していきます。戦国駅伝時代と言われるほど、上位校の力は拮抗し、今の私たちでは付け入る隙もありませんが、現在のチームを少しでも強くするという積み重ねの先に箱根駅伝があることを信じ、いつかは出てやるんだという意気込みで、日々努力していきます。私たちはあきらめませんので、これからご指導、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

4 自己記録更新者一覧 2008.9.7~10.18

9/21 第19回関東学生新人陸上競技選手権大会

800m	日下 桃子 (3年)	2'19"09
ハンマー投	楠木 千尋 (3年)	23m13

9/27 日体大長距離競技会 (日体大)

800m	園部 竜也 (2年)	2'02"43
800m	須田 遊人 (3年)	2'01"01
1500m	木内 久雄 (2年)	4'19"02
1500m	石川 恭平 (3年)	4'10"99
1500m	千徳 恒憲 (4年)	4'13"46
10000m	竹俣 直道 (2年)	30'56"59
10000m	宮野 健司 (1年)	31'17"54

10/12 京大戦 (西京極総合運動公園陸上競技場)

200m	中嶋 毅彰 (3年)	24"01 (± 0.0)
200m	西田 昂広 (2年)	23"40 (+0.7)
400m	清水 蘭 (3年)	1'05"55
5000m	山崎 貴裕 (3年)	15'12"51
5000mW	早川 晃司 (2年)	25'18"73
走幅跳	清水 蘭 (3年)	4m43 (+0.9)
三段跳	廣瀬 彬 (3年)	14m15 (+0.1)
三段跳	定金 駿介 (2年)	13m78 (+1.0)
円盤投	北川 昂広 (4年)	31m25
円盤投	谷 彰一郎 (3年)	32m32
砲丸投	楠木 千尋 (3年)	8m70
砲丸投	大久保渥子 (3年)	5m16
ハンマー投	千葉 伸宏 (2年)	33m98

5 2008年度部内5傑 2008.10.18 現在

男子 100m

1	福田 篤 (4年)	11"20 (+1.7)	4.20
2	都井 紘 (3年)	11"30 (+1.4)	5.4
3	小福田 大輔 (4年)	11"43 (± 0.0)	9.6
3	春日 慶輝 (1年)	11"43 (± 0.0)	9.6
5	藤本 元太 (5年)	11"45 (± 0.0)	8.2

男子 200m

1	舩島 一樹 (1年)	23"19 (+0.0)	5.31
2	梶岡 利之 (4年)	23"24 (+1.2)	8.31
3	春日 慶輝 (1年)	23"34 (-1.6)	7.19
3	福田 篤 (4年)	23"34 (-0.1)	5.31
5	都井 紘 (3年)	23"66 (-1.2)	5.4

男子 400m

1	小福田大輔 (4年)	49"54	9.6
2	兵頭直弥 (2年)	49"83	4.5
3	深澤真楠 (4年)	50"41	5.4
4	梶岡利之 (4年)	50"73	9.6
5	舩島一樹 (1年)	52"00	5.17

男子 800m

1	渡邊拓也 (2年)	1'56"01	4.5
2	川口祐貴 (3年)	1'58"30	5.5
3	坂井啓一 (3年)	1'58"32	6.14
4	須田遊人 (3年)	2'01"01	9.27
5	園部竜也 (2年)	2'02"43	9.27

男子 1500m

1	竹俣直道 (2年)	4'04"00	6.21
2	山田竜也 (1年)	4'08"29	8.3
3	坂井啓一 (3年)	4'09"84	5.5
4	渡邊拓也 (2年)	4'09"85	6.20
5	石川恭平 (3年)	4'10"99	9.27

男子 5000m

1	竹俣直道 (2年)	14'52"64	7.12
2	東大貴 (1年)	15'20"49	7.5
3	山田健太郎 (3年)	15'25"12	4.20
4	山崎貴裕 (3年)	15'27"42	5.5
5	梶井駿介 (4年)	15'36"16	6.21

男子 110mH

1	尾崎翔 (4年)	15"14(-0.7)	8.3
2	酒谷彰一 (2年)	15"70(-1.4)	8.3
3	増本健太郎 (2年)	16"11(+0.1)	9.6
4	高木海平 (1年)	16"69(+0.1)	9.6
5	江間輝裕 (2年)	17"02(± 0.0)	7.19

男子 400mH

1	深澤真楠 (4年)	55"47	8.3
2	赤木裕 (2年)	57"01	10.12
2	酒谷彰一 (2年)	57"01	10.12
4	江間輝裕 (2年)	58"26	7.5
5	門脇啓太 (4年)	59"24	6.14

男子 3000mSC

1	山崎貴裕 (3年)	9'48"14	8.3
2	青木佑樹 (1年)	9'51"90	7.5
3	山口健介 (8年)	10'04"74	4.5
4	庄司健太 (2年)	10'05"85	7.5
5	渡邊拓也 (2年)	10'06"85	7.13

男子 5000mW

1	和田光一郎 (4年)	24'46"28	6.14
2	北沢太郎 (4年)	25'07"04	6.14
3	位田武嗣 (1年)	25'09"65	10.12
4	早川晃司 (2年)	25'18"73	10.12
5	菅野雄大 (5年)	25'39"56	8.2

男子 10000mW

1	菅野雄大 (5年)	48'25"94	5.18
-	和田光一郎 (4年)	47'39"28	3.23
-	北沢太郎 (4年)	48'10"1	3.30

男子 走幅跳

1	尾崎翔 (4年)	7m25	5.25
2	武安光太郎 (3年)	7m19	5.25
3	西田昂広 (2年)	6m70	9.6
4	廣瀬彬 (3年)	6m68	5.6
5	倉員智瑛 (5年)	6m45	3.22

男子 三段跳

1	廣瀬彬 (2年)	14m15	10.12
2	武安光太郎 (4年)	14m01	5.17
3	倉員智瑛 (5年)	13m82	4.5
4	定金駿介 (2年)	13m52	9.6
-	西田昂広 (2年)	13m26	3.23

男子 走高跳

1	小福田大輔 (4年)	1m80	6.14
2	荒井博貴 (3年)	1m60	9.6
3	西田昂広 (2年)	1m55	9.6
4	原湖楠 (2年)	1m45	3.22

男子 棒高跳

1	大谷真人 (4年)	4m40	4.20
2	土居富裕 (1年)	4m00	10.12
3	原湖楠 (2年)	3m40	9.6

男子 砲丸投

1	北川昂広 (4年)	10m50	9.6
2	原湖楠 (2年)	9m82	8.3
3	寺島孝明 (3年)	9m31	8.3

男子 円盤投

1	谷彰一郎 (3年)	32m32	10.12
2	北川昂広 (4年)	31m25	10.12
3	原湖楠 (2年)	25m92	6.14
4	杉山聡 (1年)	17m31	9.6

男子 ハンマー投

1	寺島孝明 (3年)	40m59	5.6
2	千葉伸宏 (2年)	33m98	10.12
3	原湖楠 (2年)	3m90	10.12

男子 やり投

1	谷 彰一郎 (3年)	61m58	8.3
2	北川昂広 (4年)	49m29	10.12
3	葉梨輝 (4年)	45m24	10.12
4	原湖楠 (2年)	39m92	5.31
5	杉山聡 (1年)	27m10	6.14

男子 十種競技

1	原湖楠 (2年)	4127点	3.22-23
---	----------	-------	---------

女子 100m

1	清水蘭 (3年)	13"56(± 0.0)	9.6
2	大久保渥子 (3年)	13"74(+0.2)	8.3
3	高山花子 (2年)	14"36(+1.2)	5.31
4	楠木千尋 (3年)	14"82(+0.8)	4.13
-	日下桃子 (3年)	14"56(+0.0)	3.23

女子 400m

1	日下桃子 (3年)	1'01"42	9.6
2	清水蘭 (3年)	1'05"55	10.12
3	楠木千尋 (3年)	1'07"15	5.31

女子 800m

1	日下桃子 (2年)	2'19"09	9.21
2	鈴木恵美里 (1年)	2'51'27	10.12

女子 1500m

1	日下桃子 (3年)	4'54"67	9.6
2	鈴木恵美里 (1年)	5'46"44	6.14

女子 3000m

1	日下桃子 (3年)	11'29"16	10.12
2	鈴木恵美里 (1年)	12'43"59	5.31

女子 走幅跳

1	高山花子 (2年)	4m87	8.3
2	清水蘭 (3年)	4m43	10.12
3	大久保渥子 (3年)	4m28	7.5

女子 砲丸投

1	楠木 千尋 (3年)	8m70	10.12
2	鈴木恵美里 (1年)	5m37	9.6
3	大久保渥子 (3年)	5m16	10.12

女子 ハンマー投

1	楠木 千尋 (3年)	23m13	9.21
---	------------	-------	------

女子 やり投

1	楠木 千尋 (3年)	20m73	6.14
---	------------	-------	------

6 主務より

主務より 4点ございます。

6.1 応援OB・OG紹介

10月12日(日)、西京極競技場にて行われました京大戦に際し、応援に駆けつけて下さったOB、OGの皆様のお名前を報告いたします。(敬称略)

1957年卒 橋本雅明

1960年卒 笹治峻

1963年卒 井上尚男

1967年卒 林義之

1968年卒 小林寛道

1968年卒 湯浅味代士

1976年卒 田上静之

1983年卒 小林徹

1983年卒 八田秀雄

1994年卒 工藤麻衣子

2001年卒 三輪記子

2003年卒 相原佑康

2003年卒 川添雄太

2003年卒 橋本武

2005年卒 藤田靖浩

2007年卒 新井邦生

2007年卒 小原明恵

2007年卒 清水里紗

2007年卒 田中啓

2007年卒 向田恵

2008年卒 今村岳

2008年卒 大村泰平

2008年卒 斉藤俊

2008年卒 関原孝之

10月18日(土)、昭和記念公園にて行われました箱根駅伝予選会に際し、応援に駆けつけて下さったOB、OGの皆様のお名前を報告いたします。(敬称略)

1957年卒 古寺博

1960年卒 稲葉滋

1976年卒 田上静之

1982年卒 中山亨

1983年卒 八田秀雄

1984年卒 渡辺吏

1992年卒 松浦幹太

1993年卒 北沢剛久

1995年卒 難波聡
 2001年卒 中台慎二
 2001年卒 新妻拓弥
 2001年卒 本田達也
 2003年卒 高梨幹生
 2003年卒 山崎智裕
 2004年卒 鎌倉真音
 2004年卒 熊丸拓郎
 2004年卒 田坂和彦
 2005年卒 浅野晃平
 2005年卒 池田大行
 2005年卒 桑原明
 2005年卒 春木洋輔
 2005年卒 藤田靖浩
 2005年卒 吉岡和夫
 2006年卒 稲垣誠
 2006年卒 庄司一郎
 2006年卒 吉田和敬
 2007年卒 新井邦生
 2007年卒 岩永将太
 2007年卒 岡田良平
 2007年卒 小野剛志
 2007年卒 木村栄三
 2007年卒 田上遼
 2008年卒 石井仁也
 2008年卒 大村泰平
 2008年卒 小澤聡
 2008年卒 片山芳明
 2008年卒 小林宗隆
 2008年卒 中山陽右
 2008年卒 林田恵吏佳
 2008年卒 松本翔
 2008年卒 持永新

6.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせします。

- 第7回東大競技会
11月8(土)、9(日) 駒場
- OB ゴルフコンペ
11/16(日) 季美の森

- 倶楽部総会
3月上旬
- 第8回東大競技会
3月下旬

6.3 学生幹事の交代

学生幹事の交代をお知らせいたします。

- 主将 尾崎翔 廣瀬彬
- 主務 小福田大輔 坂井啓一

6.4 連絡先 (慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長:田上静之

TEL : 03-3835-6792

(凸版印刷株式会社経営監査室)

E-mail : seishi.tanoue@toppan.co.jp

学生主務:坂井啓一

〒113-0021

東京都文京区本駒込 2-17-14 ファーバング 203

TEL : 090-5561-4320

FAX : 045-961-1380

E-mail : shummu@uttf.org

主務 坂井 啓一

文責 : 柴田 渥史